

○ 茨城県内で発生する豚ふん堆肥を原料にしたオリジナル肥料（混合堆肥複合肥料）を製造し、県内で利用することで地域資源循環を図る。

■ 国内資源の種類

■ 肥料の種類・肥料名称

■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

豚ふん堆肥
水分25%以下（目安）
堆肥として届出しているもの

混合堆肥複合肥料
・サステナミライ Z I
※県内豚ふん堆肥約35%使用

取組の経緯

・県内で発生する豚ふん堆肥を県内で肥料として活用することで地域における資源循環を図るとともに、輸入に依存する化成肥料の使用量低減により、持続可能な農業生産を目指す生産者を支援することを目的として、JA全農いばらきと朝日アグリア（株）で共同開発し、令和5年1月から販売開始。

取組の内容

・肥料製造者である朝日アグリア(株)は県内の養豚農家と原料供給契約を締結し、原料となる豚ふん堆肥を月1~3回程度収集。関東工場にて他の原料と混合し、ペレット化した肥料をJAグループ茨城オリジナル肥料として販売。

成果（見込み）

・既存の化学肥料と比べて価格が約2割低減。

■ 作物

■ 保証成分量(%)、特徴等

葉菜類・根菜類・
果菜類

N	P	K	Mg	ほう素
12	6	4	0.40	0.20

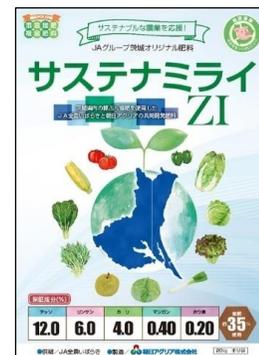
・畑に蓄積しがちなリン・カリを抑えた成分（低PK）で、土づくりにも役立つ。
・堆肥と化成肥料を混合し造粒することで、散布作業の機械化に対応。

■ 今後の課題・取組

・肥料価格の高騰により、販売量は増加。産地では土づくり効果も期待されている。
・サステナミライのシリーズ化を視野に入れ、果樹向けなどその他品目向けの資材を開発し、混合堆肥複合肥料の取扱い拡大及び地域の未利用資源の更なる活用を図る。



ペレット状



■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ

